同一面接者と異なる面接者による面接の繰り返しの比較

○井上愛弓・仲真紀子

(北海道大学文学研究科)

キーワード：面接の繰り返し、目撃記憶、司法面接

Repeated interviews by same interviewers or different interviewers

Ayumi INOUE, Makiko NAKA

(Graduate School of letters, Hokkaido University)

Key Words: repeated interviews, eyewitness memory, forensic interview

目 的

子どもの被害者・目撃者への面接に関する先行研究では、誘導的な面接を繰り返し行った場合、報告内容の誤りが増加することが示されてきた (e.g., Ackil & Zaragoza, 1998)。一方で、面接の仕方に注意すれば、面接の繰り返しは必ずしも不正確な報告を引き出すものではなく、むしろ完全な報告を得るために必要なものであるとする知見もある (La Rooy, Katz, Malloy, Lamb, 2010)。Inoue & Naka (2011) では、誘導の少ない面接法である司法面接法を用いて、同一の面接者が繰り返し面接を行うことが、被面接者の報告内容及び影響を調査した。その結果、司法面接法を用いて面接を行った場合には報告内容の正確性が維持されるのに対し、司法面接を用いない面接 (通常面接) を行った場合には、報告内容の正確性が低下することが示された。

なぜ、通常面接では正確性が低下したのだろうか。司法面接は構造化され、定型化されているので、同じ人が行っても、一度目と二度目で使われる文言は変わらない。これに対し通常面接では、面接者が一度目のやりとりにもとづき、特定の仮説をもって二度目の面接を行っている様子が伺われた。このことが、面接の正確性を下げたのではないか。そこで、本研究では、同一面接者が通常面接を繰り返した場合と、異なる面接者が繰り返した場合とが、被面接者の報告内容及び影響について調査する。

方 法

参加者 大学生 100 名。60 名は、3 名 1 組とし、面接者役 2 名と目撃者役 1 名に割り当て、面接者は各々 1 回ずつ、同じ目撃者に対して面接を行った (以下、異条件とする)。40 名は、2 名 1 組とし、面接者役 1 名と目撃者役 1 名に割り当て、同じ面接者が同じ目撃者に 2 回ずつ面接を行った (以下、同条件とする)。なお、この 40 名の参加者は、Inoue & Naka (2011) の CI 条件の面接データを使用する。

材料 刺激として、模擬の万引きシーンを撮影した約 1 分間の DVD を使用した。また、刺激提示を偶発学習とするため、干渉課題として色の塗り分け課題を使用した。

手続き 目撃者役の参加者にのみ、DVD を提示し、5 分後に 1 度目の面接を、1 週間後に 2 度目の面接を行った。目撃者役の参加者には、最初に色の塗り分け課題を求め、その過程で、「色の塗り分け課題の練習と本番の間に、休憩しながら観てください」と教示し、DVD を提示した。面接者役の参加者に対しては、NICHD ガイドラインを一部使用して、ラポール形成 (日常記憶の想起の練習) を行ってから、DVD の聴き取りに移るように教示した。各面接は 10 分程度であった。

結 果

事前に、4 名の評定者により DVD に含まれる情報を書き出し、正答の定義を決めた。各面接で報告された内容は、全て書き起こし、スコア化した。それぞれの項目について、被面接者が最初に言及した時点で、情報項目数 1 とした。報告さ

れた情報が、DVD の内容と一致していたときに“正答”とし、報告内容全体の中で正答が占める割合を“正確性”とした。

最初に、報告された全情報項目数について、2 (面接条件; 異条件, 同条件) $\times$ 2 (面接回数; 面接 1 回目, 2 回目) の分散分析を行った。その結果、条件間に有意な差は見られなかった。次に、報告内容の正確性について、同様に 2 (面接条件) $\times$ 2 (面接回数) の分散分析を行った。その結果、面接回数に有意差があり ($F(1,37)=7.84, p<.01$), 面接 1 回目 ($M=0.93$) よりも 2 回目 ($M=0.89$) の方が正確性が低かった。また、交互作用に有意差があり ($F(1,37)=6.63, p<.05$), 面接 2 回目において、異条件 ($M=0.92$) よりも同条件 ($M=0.86$) の方が正確性が低く ($F(1,74)=6.63, p<.05$), 同条件において、面接 1 回目 ($M=0.93$) よりも 2 回目 ($M=0.86$) の方が正確性が低かった ($F(1,37)=14.49, p<.001$)。正確性について、Figure1 に示す。

Figure1
各条件における面接1回目と2回目の報告内容の正確性

考 察

結果から、同一面接者が面接を繰り返し行った場合には報告内容の正確性が低下するのに対し、異なる面接者が面接を繰り返し行った場合には正確性が低下しないことが示された。このことから、特に、同一面接者が面接を繰り返し行うことで、面接 2 回目が特に誘導的になっていたことが考えられる。つまり、面接者が面接 1 回目の面接から、DVD の内容について仮説を立て、その仮説に基づいて面接 2 回目を行った可能性が考えられる。

引用文献

- Ackil, J.K., & Zaragoza, M.S. (1998). Memorial consequences of forced confabulation: Age differences in susceptibility to false memories. *Developmental Psychology*, **34**, 1358-1372.
- Inoue, A., & Naka, M. (2011). The effect of repeated interviews. The 9th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition, New York City, USA, 27-29, June.
- La Rooy, D., Katz, C., Malloy, L.C., & Lamb, M.E. (2010). Do we need to rethink guidance on repeated interviews?. *Psychology, Public, Policy, and Law*, **16**, 373-392.